

編集・発行公益財団法人日本証券経済研究所

日本証券史資料

昭和続編 全十卷

全巻予約特価

各巻定価の二割引き 送料無料

予約
募集

第一巻刊行 平成二八年四月

定価(本体一〇、〇〇〇円+税)

全巻予約特価 本体八、〇〇〇円+税 送料無料

申込先

公益財団法人 日本証券経済研究所

〒一〇三-〇二五 東京都中央区日本橋茅場町二-五-八

東京証券会館三階

電話 〇三-三六六九-〇七三七

Fax 〇三-三六六二-八二九四

Mail tokyo@jsri.or.jp

(書店に申し込まれますと特別セット価格になりませんので、
日本証券経済研究所に直接お申込み下さい。)

刊行事業の意義

日本証券経済研究所理事長 増井喜一郎

昭和四〇年証券恐慌以降、我が国の証券市場の発展、拡大は目覚ましいものがある。とりわけ、『日本証券史資料昭和続編』が史料収集の対象とする時期は、自由化、国際化に伴う制度改革の過程で、直接金融市場である証券市場が非常に重要な役割を担わされ、世界トップクラスの市場を形成していった時期と符合する。こうした発展の背後には数知れない試練があり、先人たちがそれらを乗り越えてきた歴史でもある。こうした先人の努力を知ることが、出来事を皮相的に見つめるのではなく、その本質を理解する手助けをしてくれるとともに、現代の証券市場を正しく理解するためにも、また政策運営等の課題を解決するための重要な手がかりを与えてくれるだろう。

当研究所では、これまで『日本証券史資料』戦前編、戦後編の編纂、刊行を行ってきた。これから刊行事業を開始する昭和続編は、監修と解題を二上季代司(当研究所大阪研究所長)が、資料収集と編纂は深見泰孝(駒澤大学経済学部専任講師)が担当し、昭和四〇年証券恐慌以後の約四半世紀の証券市場の歴史史料を収集、整理し、全一〇巻の予定で刊行が予定されている。その内容は国会審議録や文字史料に加えて、証券界発展の歴史を彩って来られた先人の歴史証言と多岐に亘り、正史、裏面史を兼ね備えた内容となっている。この資料集の刊行にあたっては、広く証券界のみならず、関係機関のご協力を仰ぐとともに、その各巻が証券界のみならず、関係当局や学会など広く利用されることを切に望んでいる。

日本証券史資料 昭和統編 全十卷

我が国の証券市場は、証券恐慌後二つのコクサイ化を経て急速に拡大し、大きく変貌した。証券恐慌からバブル経済に至る昭和四〇年から平成元年までを中心とする証券関連史料を収集した歴史資料集

第七卷 市場機能と証券市場

時価発行への移行、起債条件の弾力化、国際化、株式保有の法人化、証券市場の機械化、四社寡占と六五条問題ほか、市場メカニズムを活用した市場作りを展望した時期の史料を収録。

総目次 (予定)

第八卷 低成長経済と証券市場 (一) — 石油ショック以後 —

国債の大量発行、公社債市場の質的・量的拡大、時価発行の盛行と利益配分ルール、地方取引所問題をはじめとする低成長経済への移行に伴って生じた証券市場の変化に関する史料を収録。

第一卷〜第四卷 証券関係国会審議録

第四九回臨時国会から第一一六回臨時国会において、衆参両院で審議された証券関係の法律改正および金融、証券に関する審議内容を収録。

第九卷 低成長経済と証券市場 (二) — 新外為法以後 —

新外為法、株主法人化問題、店頭市場改革、国債の銀行窓販およびディーリング解禁ほか、証券市場の国際化、産業構造の転換に直面していた日本経済にとっての証券市場の再構築に関する史料を収録。

第五卷 証券史談

証券界の指導的立場にあった方、行政関係者のオーラルヒストリー。四大証券や準大手証券、中堅証券、地場証券経営者をはじめ、大蔵省証券局長経験者など、昭和四〇年以降の証券市場の発展に関係された方々三〇名以上の歴史証言を収録

第十卷 規制緩和・国際化と証券市場

日米円ドル委員会、先物取引の開始、保振法の施行、投資顧問業法の施行、東証会員権開放問題、ブラックマンデー、バブル経済など、日米円ドル委員会以後の規制緩和・国際化に対する証券市場の対応に関する史料を収録。

第六卷 証券恐慌後の証券市場

証券取引法改正と証券業への免許制導入、国債発行、大量売買制度(バイカイ廃止とクロス制度)、取引所機構改革、商法改正と開示制度の強化、証券税制改正ほかの史料を収録。

(※編纂上の都合により、巻数の異動等があり得るが、ご了承願いたい。)